

2024年6月5～6日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内の5m深の水温は12℃前後でおおむね平年並みでしたが、湾外の渡島側(St.08)では9℃台と低くなっています。深度10～30mの水温は湾内で6～12℃台と平年並みからやや高くなっていますが、渡島側の湾口から湾外にかけては低くなっています(St.22；20m層で平年差 -2.7℃)。深度50～100mの水温は湾外のSt.05で平年に比べ1～2℃低い他は、おおむね平年並みとなっています。

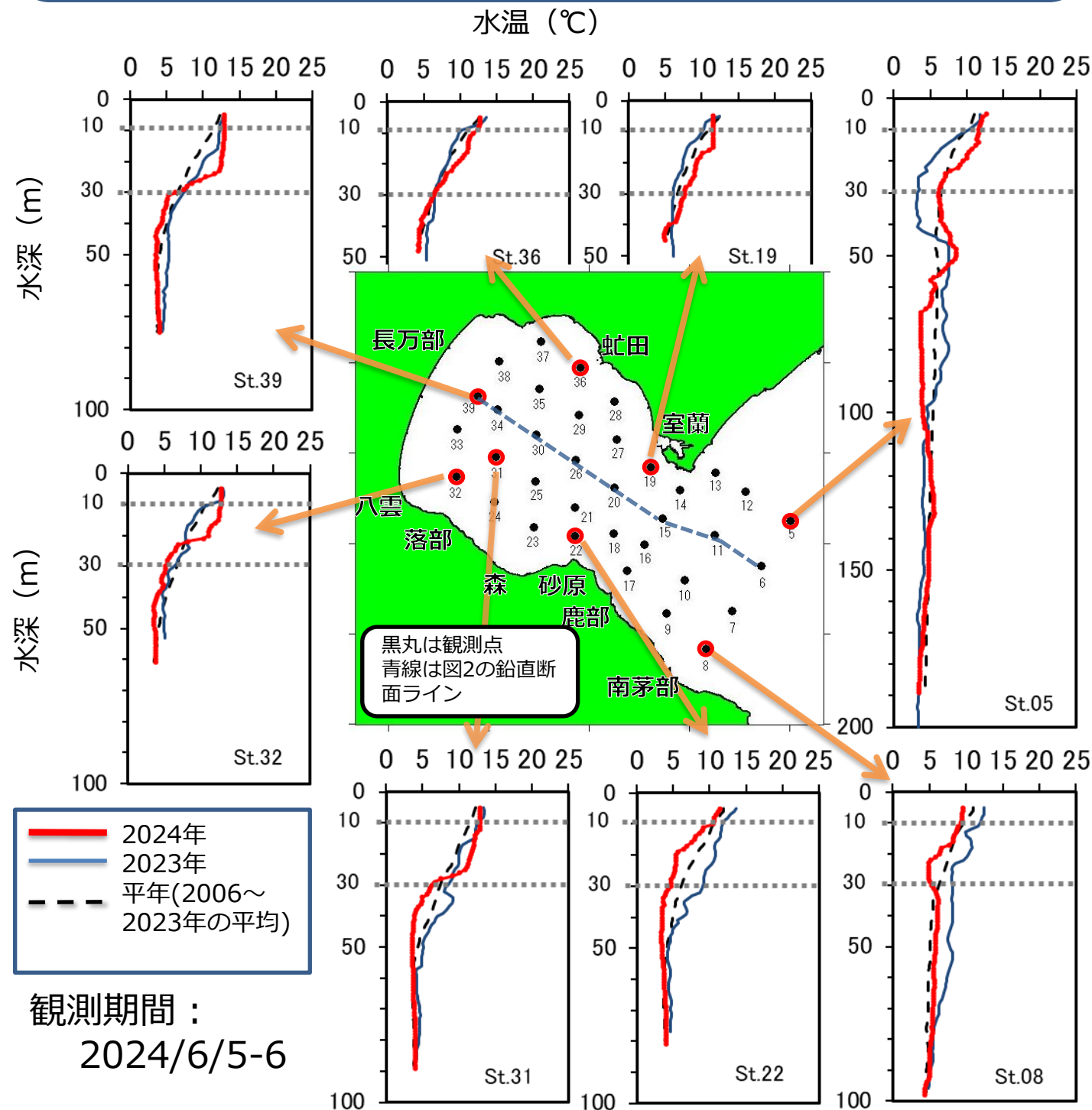


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、溶存酸素の鉛直断面分布…昨年との比較】

今年の湾内の深度10m以浅は水温が12℃前後で、昨年並～1℃程度高くなっています。また、湾内の深度40m以深の水温は、昨年と比べてやや低くなっています。湾外の水深40～60mには、昨年同様に津軽暖流水（水温6℃以上、塩分33.6以上）が出現しています。湾内の60m以深における溶存酸素量は4～5ml/L程度と、前年同時期と比べやや下がっています。

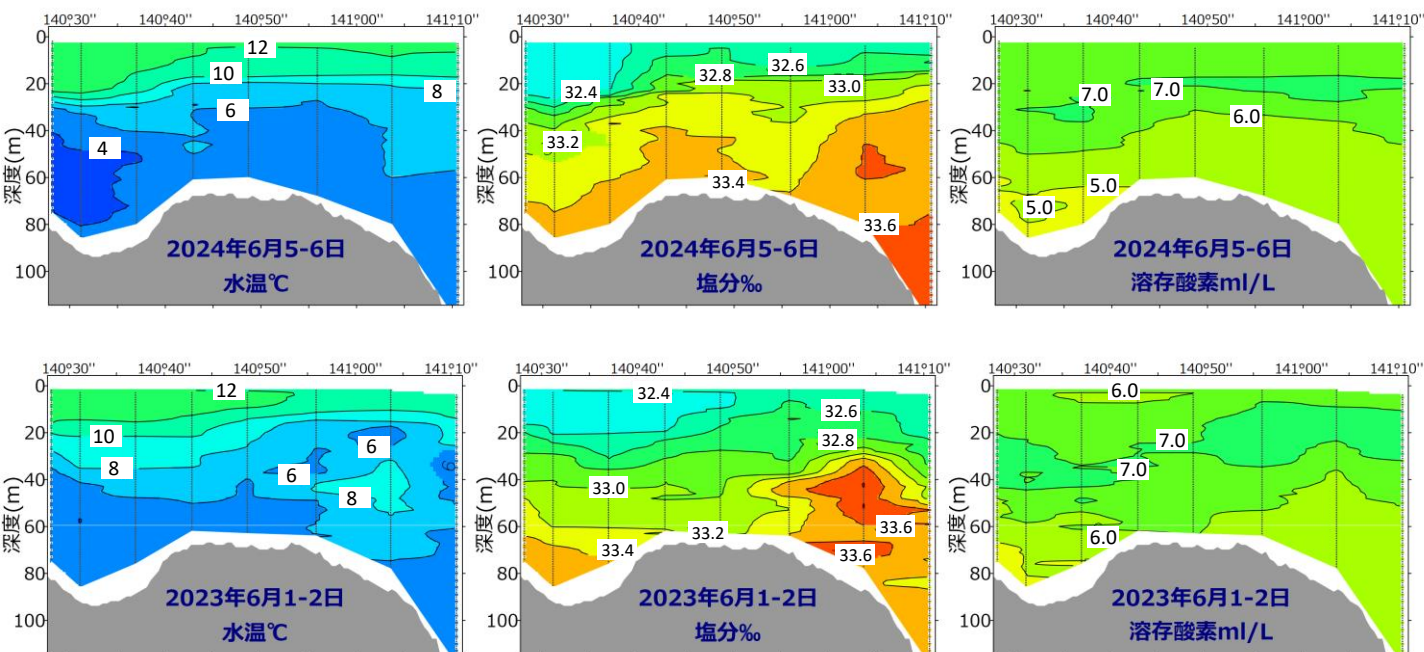


図2 水温・塩分・溶存酸素の鉛直断面図（上：2024年6月，下：2023年同時期）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照 観測点は図中黒破線

【溶存酸素の分布…前月との比較】

6月の海底上5mの溶存酸素量は3.9～6.0ml/Lで、貧酸素水（3.0ml/L以下）は観測されませんでした。一方で今年の5月調査（4.2～6.2ml/L）よりも、湾奥を中心に5ml/Lを下回る範囲が広がっていました。

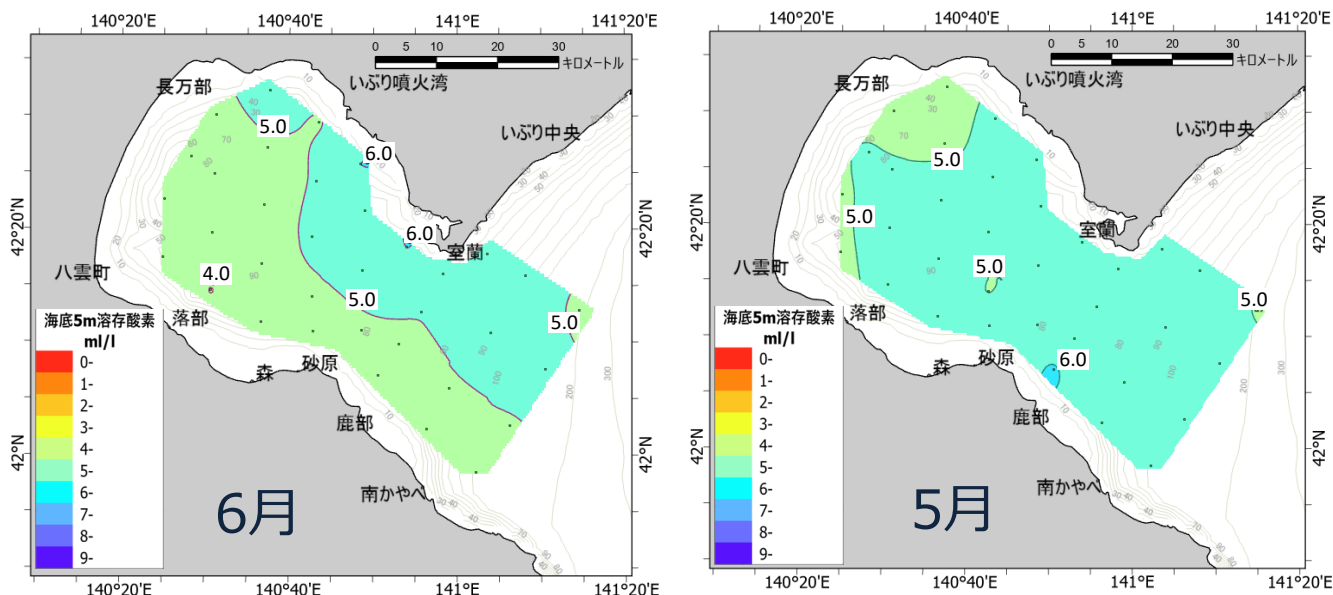


図3 海底上5mの溶存酸素の分布（左：2024年6月、右：前月；2024年5月）